

## 高砂市の人口動態の推移

まず、**自然動態**についてみると、出生数が平成元年から平成13年まで1,000人前後で推移していたが、それ以降減少傾向にあり、平成20年で818人となっている。一方、死亡数は近年増加傾向が見られ、平成20年で805人となっている。出生数から死亡数を減じた自然増減をみると、平成8年までおおむね400人台の自然増で推移していたが、平成9年から平成14年まで300人台、平成15年から平成18年まで100人台の自然増で推移しており、近年さらに減少傾向が見られる。

次に、**社会動態**についてみると、平成元年から平成7年まで転入数が転出数を上回る社会増の状態であったが、平成8年以降は転出数が転入数を上回る社会減の状態に推移している。なお、平成20年は持ち直しの傾向が見られ、44人の社会増となっている。

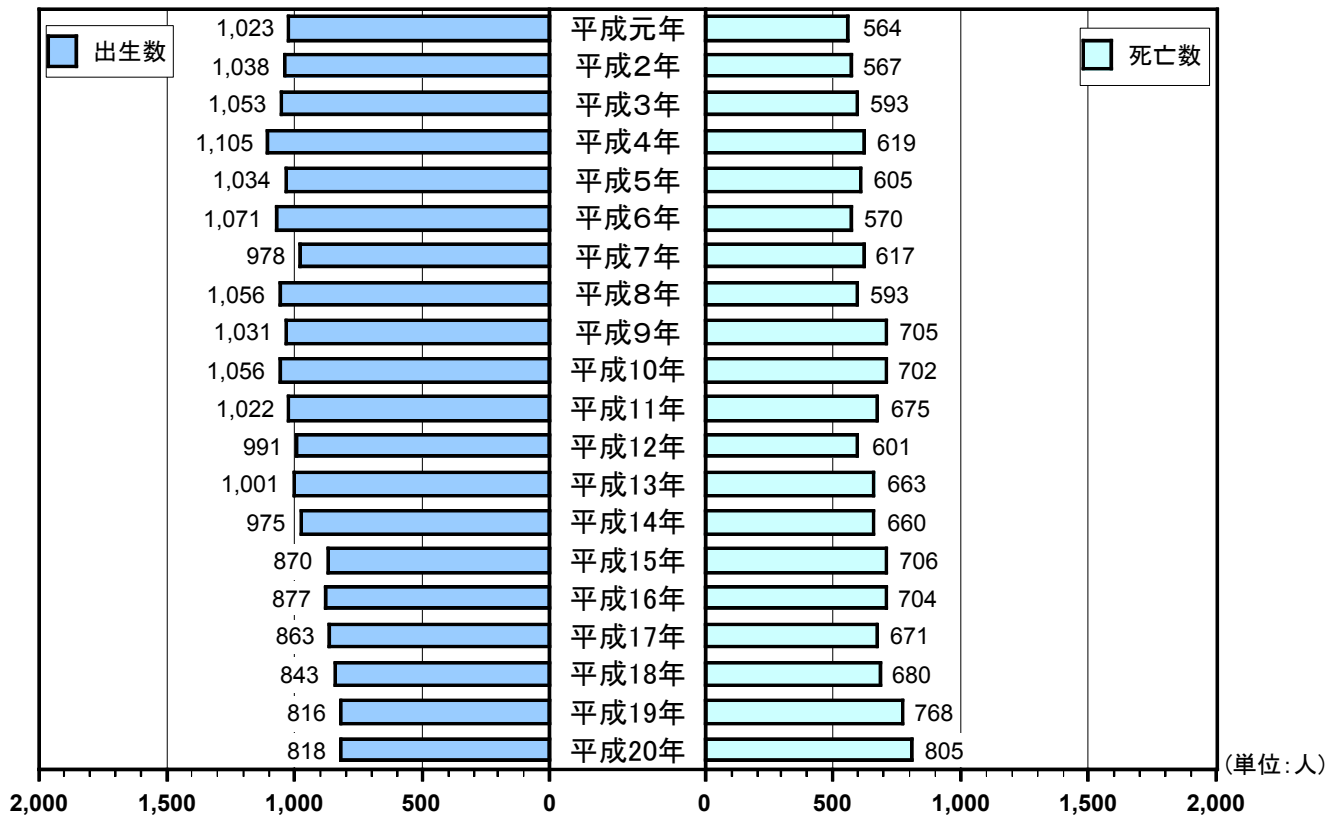
また、自然増減と社会増減を合計した人口の純増減をみると、平成元年から平成9年までプラスで推移していたが、平成10年以降はおおむねマイナスで推移しており、人口減少局面を示している。なお、直近の平成20年はプラス57人となっている。

## 人口動態の推移

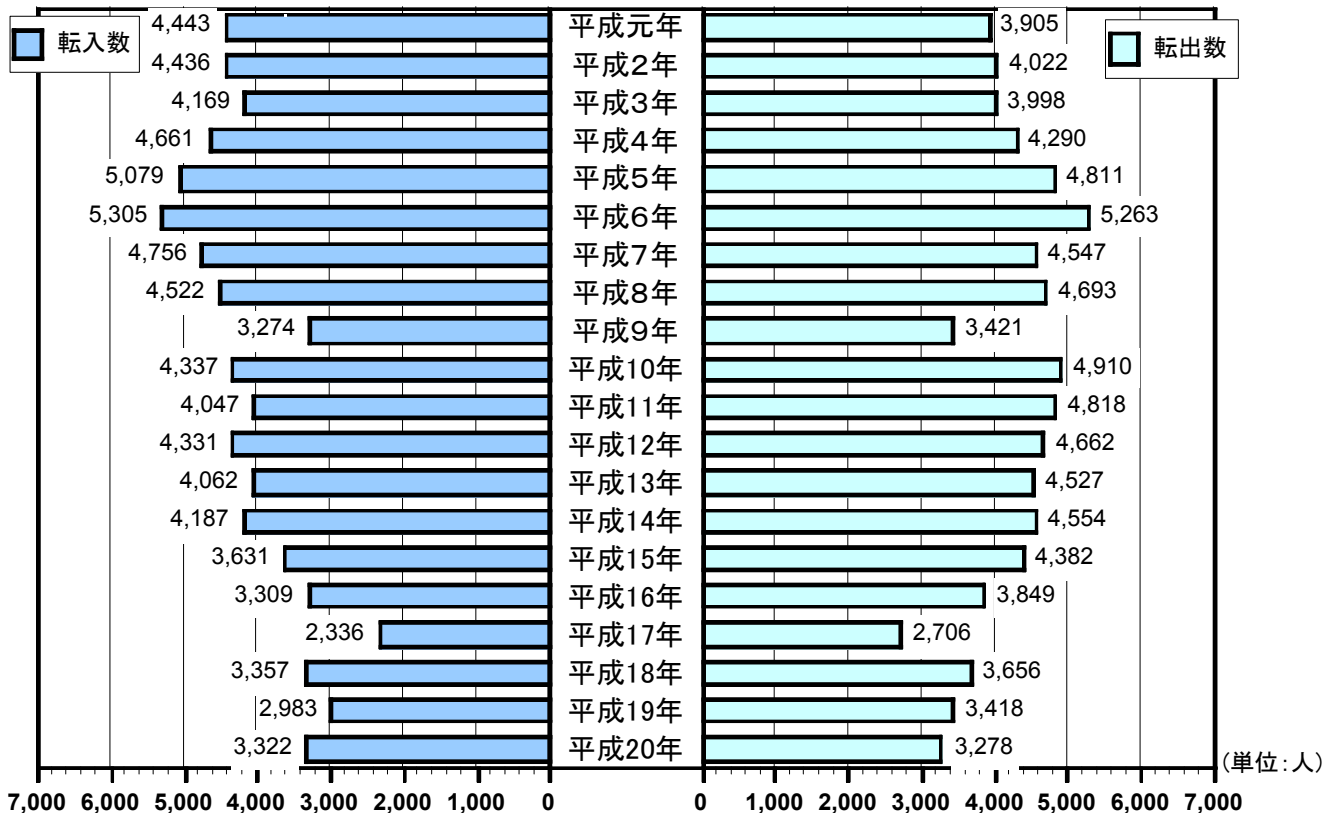
(単位：人)

	自然動態			社会動態			純増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
平成元年	1,023	564	459	4,443	3,905	538	997
平成2年	1,038	567	471	4,436	4,022	414	885
平成3年	1,053	593	460	4,169	3,998	171	631
平成4年	1,105	619	486	4,661	4,290	371	857
平成5年	1,034	605	429	5,079	4,811	268	697
平成6年	1,071	570	501	5,305	5,263	42	543
平成7年	978	617	361	4,756	4,547	209	570
平成8年	1,056	593	463	4,522	4,693	△171	292
平成9年	1,031	705	326	3,274	3,421	△147	179
平成10年	1,056	702	354	4,337	4,910	△573	△219
平成11年	1,022	675	347	4,047	4,818	△771	△424
平成12年	991	601	390	4,331	4,662	△331	59
平成13年	1,001	663	338	4,062	4,527	△465	△127
平成14年	975	660	315	4,187	4,554	△367	△52
平成15年	870	706	164	3,631	4,382	△751	△587
平成16年	877	704	173	3,309	3,849	△540	△367
平成17年	863	671	192	2,336	2,706	△370	△178
平成18年	843	680	163	3,357	3,656	△299	△136
平成19年	816	768	48	2,983	3,418	△435	△387
平成20年	818	805	13	3,322	3,278	44	57

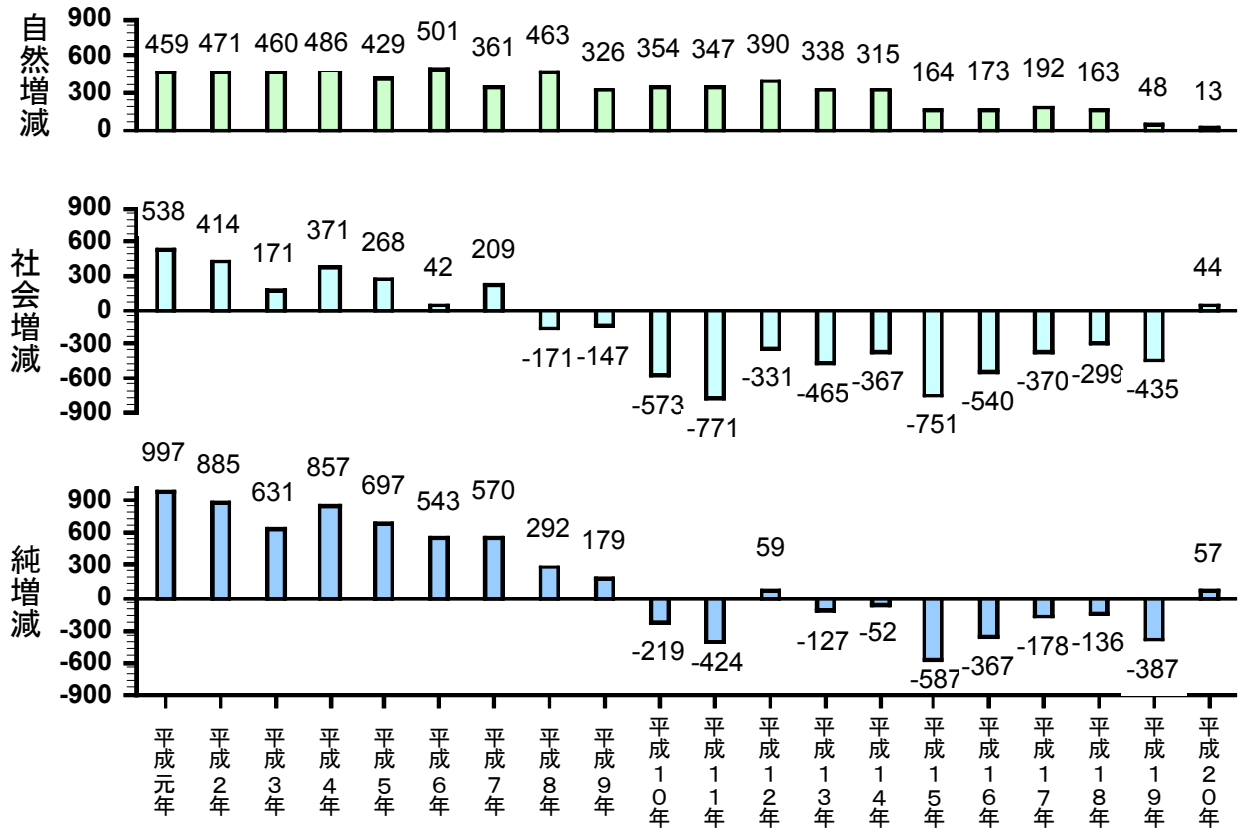
## 自然動態



## 社会動態



### 自然増減／社会増減／純増減



平成 16 年から平成 21 年までの年齢 5 歳階級別人口の純増減をみると、生産年齢人口（15～64 歳）における減少が際だっており、特に 25 歳～34 歳、50 歳代の減少が著しい。しかし、35～44 歳の子育て世代は増加傾向にあり、年少人口（0～14 歳）の減少も鈍化傾向にある。また、団塊の世代が高齢期を迎えつつあり、60 歳代の人口が近年急増している。

年齢 5 歳階級別人口の純増減（各年 10 月住民基本台帳人口より）

